

今季開幕戦は序盤の車両トラブルも 若手のマイレージを増やし完走



Team Noah「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、3月21～22日にモビリティリゾートもてぎ(栃木県)で開催されたENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 第1戦「もてぎスーパー耐久 4Hours Race」に参加。決勝レースは序盤にハブボルトが折れるトラブルに見舞われピットでの修復に時間を要したこともあり、レースプランを若手ドライバーの慣熟走行を優先することに変更。彼らのマイレージを増やすことで今後の活躍につながるレースとした。レース復帰後は4人のドライバーをつなぎ完走。結果はクラス11位だった。

福岡に本拠を置く Team Noah は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして2018年にS耐に参加を開始。21～22年はホンダ・シビック TCR で ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。23年は車両を GR Supra GT4 EVO にスイッチし、国際的に人気を集める GT4 車両による激戦区クラスである ST-Z クラスへクラス替えした。

マッハ車検とのコラボレーション3年目を迎えた今季から、チームはS耐への挑戦を”第2章”とし、チーム運営とメンテナンスを川野隆晴監督率いるカワノガレージが担当。ニューボディを投入し、ST-Z クラスでの初優勝とタイトルを狙う。ドライバーはチーム加入3年目の下垣和也を軸に、Bドライバーにチームのエースである富田自然(あるが)、Cドライバーに大分出身の森田真心(こころ)、そしてDドライバーに福岡県在住でスーパーFJなどフォーミュラレースを戦いツーリングカー初挑戦の22歳の永原蒼翔(あおと)とした。

今回のもてぎ4時間レースに出走した車両は、全9クラス計56台。ST-Z クラスは、GR スープラ、Z、ポルシェ・ケイマン、メルセデス AMG、アウディ R8 と国内外の GT4 マシン 5 車種計 12 台がエントリーした。参加車両が多いため今年も車両を2つのグループに区分。ST-Z クラスが組み込まれた Race2 は 22 日に行われる。公式予選は 21 日の朝 8 時にスタート。気温 4℃とかなり冷えてタイヤの温まりにも時間がかかる難しい予選となった。A、Bドライバー2名、下垣とコースレコードを更新した富田のタイム合算の結果はクラス10位。また森田と永原も難なく基準タイムをクリアした。

Race2(ST-X、Z、Q の 2 台、2 クラスの計 32 台)は晴れ/ドライで気温 14℃という 12 時 4 分にスタート。まずはジェントルマンドライバーの下垣がスタートを担当し、60分という運転時間の義務をクリアし、残りの3時間は若手ドライバーで順位を挽回し、アンカーの富田がさらに順位を上げるという作戦。しかしスタートから数周で下垣が車両の異常に気づき、スタートからわずか40分、クラス9位走行中の20周目にペースが落ち緊急ピットインすることになった。右リヤのハブボルトが3本折れるというトラブルで、修復作業には35分ほどを要しクラストップから16周遅れとなった。修復後は下垣が運転時間をクリアするためにアウト/インで永原に交代した。

ここでチームは作戦を変更。今回ツーリングカーデビューとなった永原と周回数をこなしたい森田の運転時間を長く取り、彼らのマイレージを増やすことにした。永原は1台のZを先行させるとこれにピタリとつけ、同じクラスの車両の挙動を後方から観察。3コーナーで抜き返したが直後にスピンを喫すなど、経験値を増やし31周を走りピットイン。ここで森田に交代した。森田は1分59秒台に入れる走りを見せこちらも31周でピットインした。アンカーの富田は1分58秒635とスープラ勢の中では3番目となるタイムをマーク。17周を走りトータル99周で11位でチェッカーを受けた。残念ながらポイント獲得とはならなかったが、データを蓄積し大きな収穫となった。次の第2戦は、4月18～19日に鈴鹿サーキットにおいて5時間レースとして開催される。

下垣和也「今シーズンは富士24時間以外のレースに参加予定です。今回は序盤の数周は調子が良かったのですが、後ろがフワフワし出してピクアップかなと思ったのがそうでもなく、ガタガタ言い出して真っ直ぐ走れなくなったのでピットインしました。トラブルは残念ですが、若いドライバーたちには実戦での経験を多く積むことができたと思います。次は地元の鈴鹿なので上位を目指してしっかり走りたくと思っています」

富田自然「最初のステイントで履いていたタイヤで1分58秒台の半ばをマークすることができましたが、セッティングはもっと煮詰められたのかなと思います。まだ若干アジャストしきれない部分がありましたから。ただ今回で方向性は見えて来たので、これから後のラウンドは速くなっていくと思います。後輩たちもどんどん速くなっていきますし、みんな鈴鹿は走り慣れているコースですし、次は結果を求めて頑張ります」

森田真心「今日は1時間以上、良い時は1分59秒台後半から2分0秒台で走ることができました。去年からクルマのトラブルが出てしまうのは残念ですが、クルマのフィーリングは良いし、ドライバーもだんだん良くなっています。次の鈴鹿ラウンドに向け自分的に準備することができましたし、クルマもいろいろ試さなければいけないことが出て来ました。2年ぶりの表彰台を狙いたいと思っていますし、良い結果に期待して欲しいです」

永原蒼翔「S耐というハコ車のレースデビュー戦でしたが、ベストは2分を切ることはできませんでした。今回は前のクルマがスピンしそうになったので、避けようとして初歩的なミスをしてしまいました。経験として次につなげたいと思います。レースウィークで一番長く走ることができて、とても練習になりました。分からないことはたくさんありますが、フォーミュラと違うところを経験、勉強して今後につなげていきたいと思っています」